

令和5年度 健康くまもと21推進会議

第2回 第3次健康くまもと21基本計画策定委員会・がん部会 議事録（要旨）

開催日時 令和5年（2023年）11月16日（木）15時00分～16時30分
場 所 Teamsまたは会場参加
出席委員 9名（会場8名、オンライン1名）
内田昭治、大森久光、工藤壽子、小山登代子、永野智子、濱田泰之、原田直、
宮本浩、山田浩一（五十音順・敬称略）

次第

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 議題
 - ・ 第3次健康くまもと21基本計画（素案）について
 - ・ がん検診受診率向上の取組について
- 4 閉会

議事概要

- 第3次健康くまもと21基本計画（素案）について
《事務局》事務局から骨子案について説明

《委員》

「健康寿命の現状の要因となると考えられる指標の最終評価や健康データから見える主な健康課題」（概要版P.10、素案P.13）内の「持続可能な食を支える食育の取り組みである、家庭での食品ロスの削減、地産地消、郷土料理の伝承については目標値に達していない。」の項目については、「食の安心安全・食育推進計画」における大切な項目であるが、健康課題として扱うべきであるのか疑問に感じた。

《事務局》

食は健康の土台となるものである。食材の安全安心が確保され、その上に食育の推進があり、それが健康づくりの基本となる。そしてその取組の最上位に健康寿命の延伸があるという考えのもと、健康の基本となる部分として記載している。

身近な場所でとれた農水産物を使用しそれを使用した郷土料理等が栄養素的にも優れ、更にフードマイレージの削減にも繋がる。食育の推進を考える時に、農や環境については、重要なポイントであるため課題として記載している。

《委員》

ライフコースアプローチの視点からも、糖尿病予防等、こどもの頃からの食育は健康に必要なものであると考えられる。

《委員》

ご説明いただいたことで理解できたため、計画の記載だけで分かるようになってよいと思う。

《委員》

例えば、ファストフードと和食などの伝統的な食事・地産地消を対比することで分かりや

すい表現になるのではないか。医食同源の考えからも地産地消等は健康において大切だと思うため、記載の工夫で分かりやすくなると思う。

《委員》

熊本県の健康増進計画では糖尿病対策を最重要課題としている。熊本市でも糖尿病対策やCKD対策もある中で、第4章の重点取組（概要版P.15、素案P.18）においてはがん対策を取り上げているのはなぜか。

《事務局》

糖尿病対策には従来から取り組んでいるため、第5章（健康増進計画）の中で詳しく記載したいと考えている。

《委員》

健康課題として挙げられている糖尿病の対策としては特定健診をしっかりと行っていく必要がある。そして、特定健診受診後の保健指導への結び付けも重要である。協会けんぽでの保健指導実施率が熊本支部は1位であるが、保健指導による改善が課題で、改善につながらないことで結果として医療費が高くなり、保険料率も熊本支部は全国上位となっている。まずは健診の実施、そしてその後の保健指導を実のあるものにしていく検討も必要だと感じている。

《委員》

これは長年の課題であり、情報共有をしながら対策を検討していければと思う。

《委員》

学校薬剤師として禁煙指導や薬物乱用防止の話を若年層に行っている中で、子ども達から良い反応があることを踏まえると、糖尿病や生活習慣病についても、若いうちから健康指導の話を行う機会があるとよいと考える。若いうちに話を聞いておくことで、大人になってからの反応が違ってくるのではないかと思う。

《委員》

ライフコースアプローチの視点からも、こどものころからの啓発は必要だと考える。

《委員》

「フレイル状態」や「HACCP（ハサップ）」等の用語について、説明があると市民の方にも分かりやすいのではないか。

《事務局》

製本するにあたり注釈をつける予定であり、いただいたご意見を元に検討していく。

《委員》

概要版19ページにも記載のある高齢者の低栄養・やせについては超高齢社会を迎える中で今後とても重要な課題であると感じている。具体的な取組があるとよいと思う。

《事務局》

内容について検討していく

《委員》

健康問題について、WHOが提唱しているように社会的なつながりが必要だと感じている。孤独死の問題についても何らかの健康課題があるはずであるし、福祉課題として孤立は大きな問題。その観点から「第5章 3健康になれるコミュニティづくり」について、しっかりと謳っていただきたい。

《事務局》

熊本市では以前から校区単位の健康まちづくりの取組を行っており、計画にも記載を行っている。また、今回の計画においては新たにソーシャルキャピタルの視点も取り入れて、コロナ禍において制限を受けた取組についても活動の見直しを行っており、計画の中でも示していく予定。

《委員》

高齢者の孤独に関して、西里校区では高齢者の見守りに力を入れている。見守りについても計画に入れていただきたい。

《事務局》

記載ぶりについて事務局で検討していく。

《委員》

働き盛り世代の健康づくりについて、こころの健康づくりが問題になっている。当事者が相談・受診を望まないという課題や、受診しようとしても患者が増えており医療機関の受け皿も足りていないという課題がある。素案 P.44 に具体的な取組施策の記載もあるが、さらに一歩踏み込んだ取組がなければ現状はなかなか変わらないと感じている。

《委員》

医師会としてがん検診の受診率向上に積極的に取り組んでいる。胃がん検診は内視鏡検査の導入や胃がんリスク検査の導入、大腸がん検診は郵送検診の実施、肺がん検診は個別検診の導入、乳がん検診については視触診を廃止しリスクの高い世代への受診勧奨の実施、子宮頸がん検診については検査方法の変更やワクチンの接種などに取り組んでいる。

●がん検診受診率向上の取組について

《事務局》事務局から資料について説明

《委員》

特定健診とがん検診の同時実施が重要だと考えている。同時に受診できる花畑健診の実施などの取組を行っており、引き続き推進していただきたい。

《委員》

特定健診とがん検診の同時実施は重要。また、肺がん検診・胃がん検診の精度向上の取組への協力や、子宮頸がんワクチン接種の推進についてもお願いしたい。

《事務局》

特定健診とがん検診の同時実施は受診者にとっても良い取組だと感じている。花畑健診は今後も継続する予定であり、特定健診とがん検診の同時実施の推進等、がん検診受診率向上に向けて今後も取り組んでいく。

以上、議事終了。

《事務局》

閉会